

- 季節の花：コスモス・キンモクセイ
- コラム：紅葉のしくみ
- 情報：花のイベント

# ふらっとふらわーず ニュース

- 発行：ふらっとふらわーず
- 2013 秋号 第4号
- 連絡先：042-682-2835
- 編集委員：内田信子

## 季節の花

### ★【コスモス】 キク科コスモス属

和名で「秋桜」と書くこの花は、まさに日本の秋を代表する花です。「秋に咲く桜のような花」から「秋桜」。もともと日が短くなるにつれて開花する短日植物なので、**かつては夏にタネをまき、秋に花を楽しむものでした。**しかし、近年はそれほど日の長さの影響されずに開花する早生品種が主流になり、春にタネをまいて、夏から開花を楽しむケースがふえています。**原産地はメキシコ**で、標高1600m以上の地域に自生し、日本と同様に、道路わきや休耕地で群生するのが見られます。日本には幕末に種が入り、明治時代にイタリアから音楽教師が種を持ち帰ったことから園芸的に広がったと言われます。属名の「cosmos」は、ギリシア語の「kosmos」に由来し、「秩序、飾り、美しい」の意味があります。**星がきれいにそらう宇宙のことを「cosmos」と呼び、花びらが整然と並び美しいこの花も「cosmos」と呼ぶようになったと言われます。**



花は、ピンクや白に加えて濃赤、黄やオレンジ色、複色が登場し、年々カラフルになっていきます。性質はいたって丈夫で、日当たりと風通しがよい場所であれば、あまり土質を選ばずに育ちます。その育てやすい特徴と美しさから、日本各地に「**コスモス街道**」や「**コスモス畑**」が広がっています。例えば**長野県の佐久市**では、老人クラブがボランティアで植えたのが始まりで、今も地元の人に大事に育てられ、現在全長9kmに及びコスモス街道が訪れる人の目を楽しませています。**奈良県の斑鳩**でも、法起寺そばの休耕田で、コスモスの里作りに地域ぐるみで力をいれているそうです。「**三重塔とコスモス**」いかにも旅情をそそる風景です。「**秋の澄んだ青い空(宇宙)**」と「**花の秋桜(コスモス)**」。同じ語源から生まれたこの2つは、暑かった夏を乗り越え、やっと訪れた爽やかな秋を満喫できる、抜群の組み合わせです。



斑鳩のコスモス



佐久市のコスモス街道

#### ◎ 花言葉

「乙女の真心」「乙女の愛情」(花言葉事典より)

(参考：趣味の園芸、季節の花300、長野県佐久市、花の名所)

★【キンモクセイ】 **モクセイ科 モクセイ属**  
風に乗り、漂ってきた香りでふと足が止まる。「あーもうキンモクセイが咲く季節になった」と、それまで存在に気付かなくても、**香りが主張する**花です。でもこの香り、苦手とする方もいらっしゃるようですが、実は**多くの昆虫も苦手**なようです。

キンモクセイの香り成分は、**一部の昆虫に対して忌避行動**を取らせることがわかっていて、広島大学大学院生物圏科学研究科の大村氏によると、「生態学的な意義は定かでないが、ある種の昆虫を花から遠ざけ送粉者を選抜していることが予想される。あるいは、この特異な花香に強く誘引される送粉者が原産地にはいるのかもしれない」とのことです。日本では雄株しか存在しないため受粉しないという事ですが、「**特定の昆虫を集めるための香り**」。あの強烈な香りにはそんな秘密があったのですね。また植物の「香りの奥深さを感じます。」

◎ **名前の由来**  
属名のOsmanthusは、ギリシア語のosme(においの意)とanthos(花の意)に由来。金木犀の犀(サイ)は樹皮がサイの皮膚に似ている事から

#### ◎ 育て方

**栽培環境**：暖地を好み、寒さにやや弱く、霜が降りるような場所では生育は不良。やや湿り気のある肥よくな壤土質を好み、日当たりのよい場所ほど花つきは良好。  
**水やり**：夏場の水切れ注意。土壌の乾燥は花つきを不良にする。  
**肥料**：2月下旬から3月に、有機質肥料を中心に施肥。  
**作業**：剪定は、新梢が伸びる前の早春に行う。  
**花言葉**：謙遜「真実」「陶醉」「初恋」(花言葉辞典より)  
(参考：趣味の園芸、キンモクセイ開花情報のサイト)



## コラム

### 紅葉のしくみ

「紅葉狩り」は「モミジガリ」と読み、「紅葉ハモミジ」のような印象ですが、似たような木に「カエデ」があります。実はどちらもカエデ科カエデ属で植物の分類上は同じですが、普通は、葉の見た目で使い分けています。**葉の切れ込みが深いカエデを「ハモミジ」、葉の切れ込みが浅いカエデを「ハカエデ」と呼んでいます。**例えば「イロハモミジ」「ハウチワカエデ」です。



イロハモミジ ハウチワカエデ

では紅葉は、そもそもどのようにして起こるのでしょうか。葉はそれ自体も養分を消費しているため、秋になり気温が低く、日照時間が短くなると、温度も光も不十分のため**光合成の効率は下がる**こととなります。生産する養分が少なくなると、葉を残すことは植物の生存にとって不利になります。また冬の空気は乾燥しているため、葉の表面から水分が蒸発することも問題です。そこで**落葉樹では秋になると、落葉の準備**が始められます。葉の細胞には光合成を行う**葉緑体**という器官があり、葉緑体には緑色の光合成を行う「**クロロフィル**」と、

活性酸素を消して葉や果実の組織を保護する黄色の「**カロチノイド**」という2種類の色素が存在しています。夏の時期は、クロロフィルが**光合成を盛んに行う**ために葉は**緑色**ですが、秋になり光合成を行わなくなると、**緑色が薄くなり**、葉に含まれる他の色素の色が見えるようになります。黄色に見える「**黄葉**」は、葉の中にもともとクロロフィルと一緒に含まれていた「**カロチノイド**」の**黄色の色素が見えてくる**ことで起こります。イチヨウやボブナなどの樹木は、この状態で落葉していきま

一方赤に見える「**紅葉**」は少し複雑です。「**紅葉**」する樹ではクロロフィルの再生産停止と同じ頃、葉の根元と枝の間に「**離層**」と呼ばれるコルク状の物質が形成され、葉と枝の間の物質の交換を妨げるようになってきます。葉で作られた**ブドウ糖が、枝に流れず葉に蓄積**されるようになります。ここに日光、特にその中でも**紫外線が当たる**ことでブドウ糖が分解され、それまで存在しなかった**新たな色素、赤色の「アントシアン」**がつくられるのです。

このようにアントシアンは日光によってつくられるので、日当たりの良い部分から赤く紅葉していきます。また、夜の気温が高いと、昼間作った糖分を使って活動してしまつたため、鮮やかな赤になりません。乾燥しすぎると葉が紅葉する前に枯れてしまします。

つまり、紅葉の良し悪しを決める3つの条件は、**①日中の天気**が**いいこと**。②**昼と夜の寒暖の差があること**。③**適度な雨や水分があること**。という事で、紅葉の名所に深谷や川沿いが多いのは、こうした条件が揃っているからだそうです。さて、今年はどうな色を見せてくれるのでしょうか。

(参考：森林林業学習館、国立科学博物館、eoo生活、Gooキッズ)



## 情報

- 国営昭和記念公園30周年記念コスモス祭り2013  
9月14日(土)～11月4日(月) 国営昭和記念公園
- 明治神宮秋の大祭奉祝菊花展  
10月23日(水)～11月23日(土) 明治神宮
- 日比谷公園カーテニングショー2013  
10月25日(金)～31日(木) 日比谷公園
- 六義園「紅葉と大名庭園のライトアップ」  
11月22日(金)～12月8日(日) 六義園